

OCXO 性能評価試験データ

<評価OCXOの型番及び主な仕様>

【型番】 STP3098LF -10.000MHz
【評価品のDateCode】 13/46
【周波数】 10.000000MHz
【電源電圧】 +5.0Vdd
【出力波形】 矩形波
【周波数温度安定度】 $5 \times e^{-10}$ peak_peak
【周波数長期安定度】 1E-10以下/1日

<添付データ>

	ページ
① データシート 1
② 常温での電気的特性データ 2
③ 高調波及び出力波形実測例 3~4
④ 周波数起動特性例(電源投入~約1時間) 5
⑤ 起動時消費電流例(電源投入~約1時間) 6
⑥ 起動~9日目までの周波数経時変化 7
⑦ 周波数温度特性実測例 8
⑧ 周波数再現性 9~11
⑨ 位相ノイズ実測例 12

2014年 1月 23日 作成

株式会社 多摩デバイス

TEL. 044-945-8028

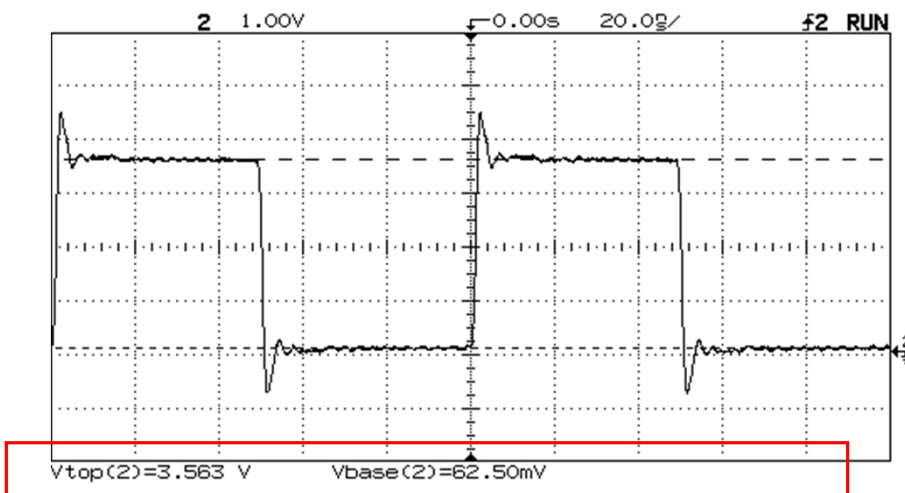
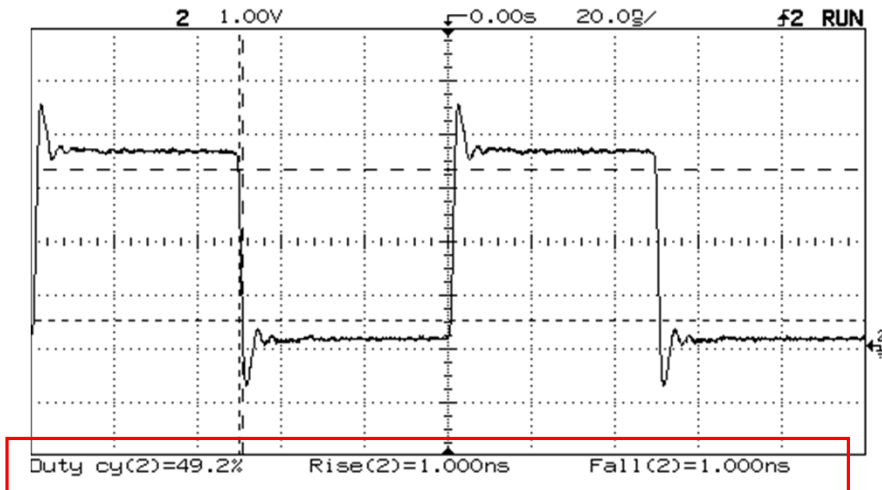
FAX. 044-945-8486

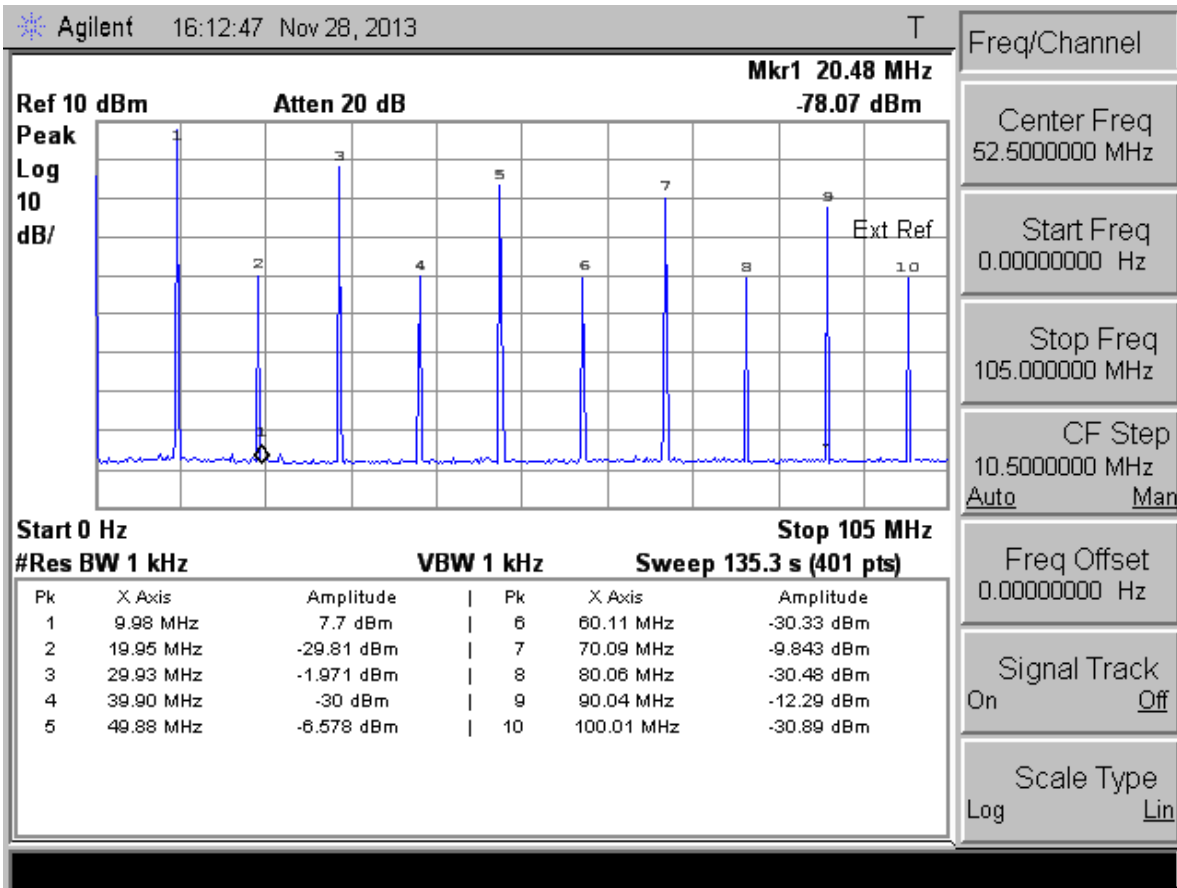
担当：谷

2013/11/29

Output Wave Form

- * 54600B Oscilloscope
- * 10073C Passive Probe
- * Load = 15pF





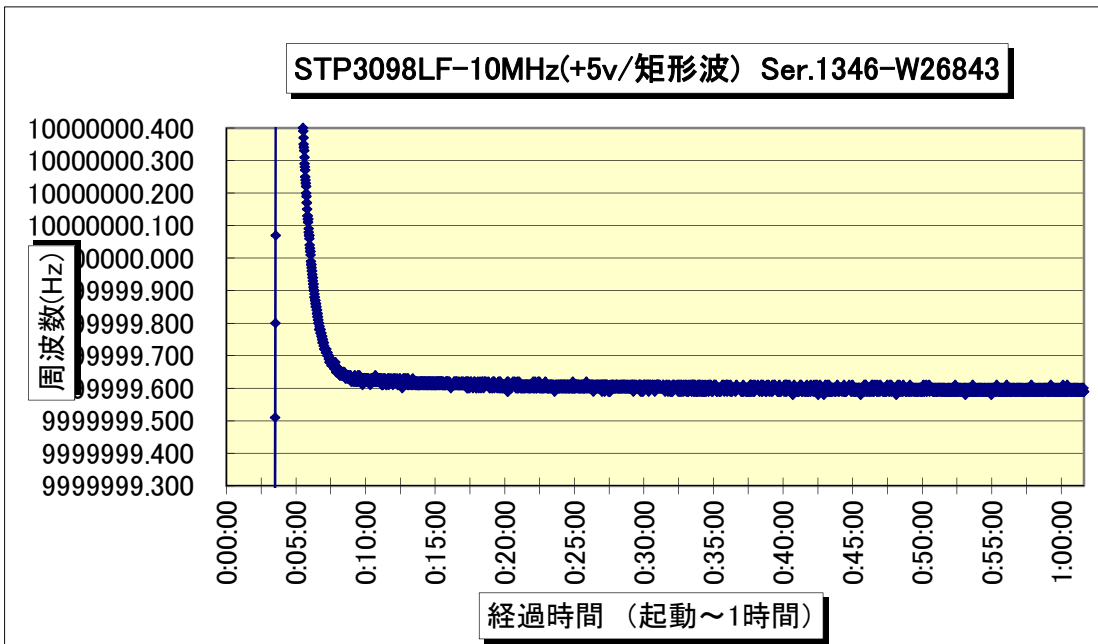
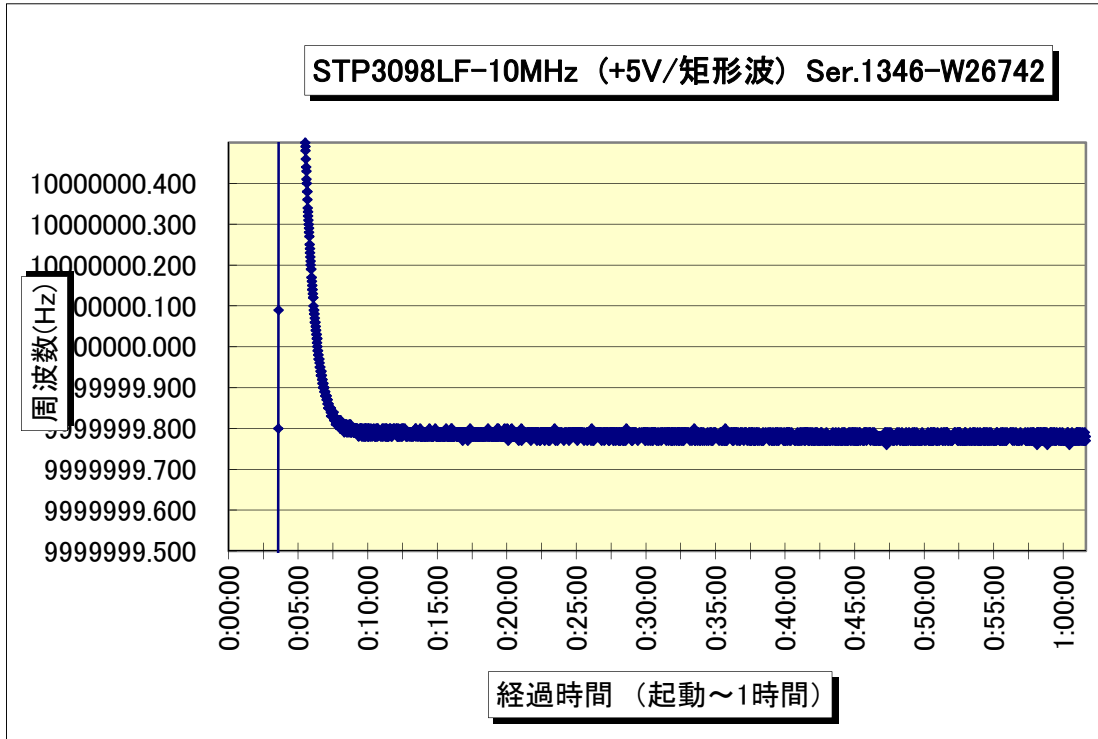
※ 10MHz以下の低調波の無きことを確認。

※ キャリアの整数倍以外のスプリアスが無きことを確認。

STP3098LF-10MHz (+5V, 矩形波) 起動特性実測データ例

2013/12/14

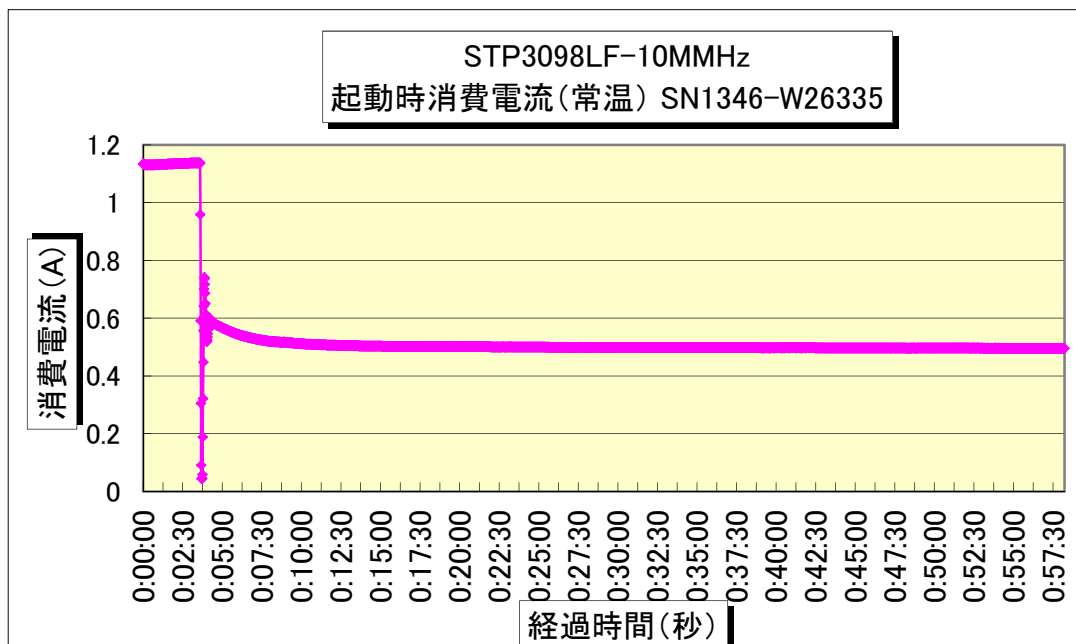
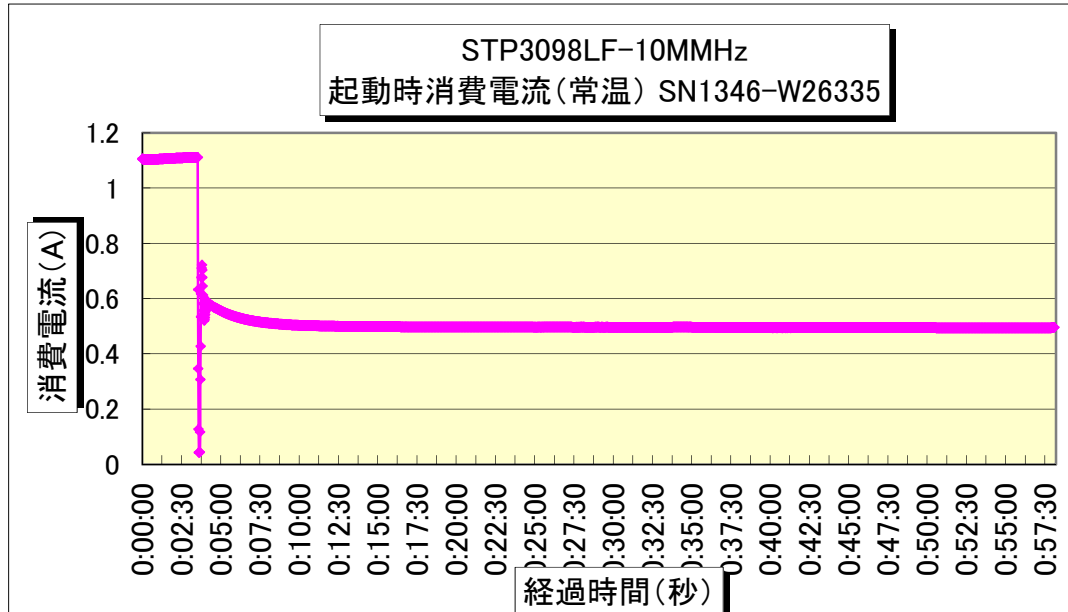
条件 Vdd = +5.0V
VC = +2.0V
温度=室温にて



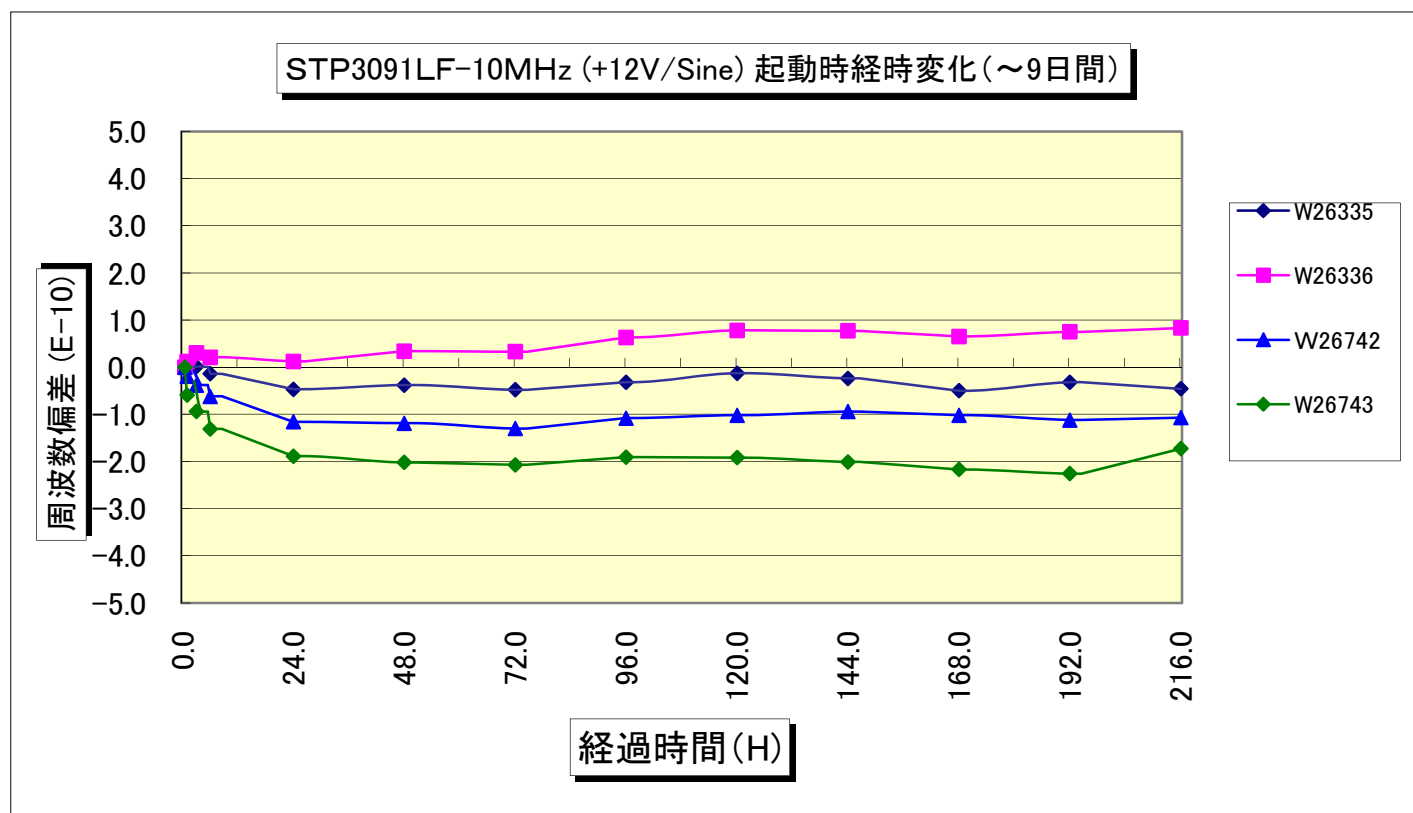
STP3098LF-10MHz (+5V, 矩形波) 起動時消費電流実測データ例

2013/12/13

条件 Vdd = +5.0V
VC = +2.0V
温度=室温にて



- ・測定方法・24時間以上非通電の状態から試験を開始
 - ・電源電圧及び制御電圧は一定とする
 - ・周囲温度は室温にて(+20~+25°C程度)
 - ・電源投入後、0.5H/1.0H/3.0H/6.0H の時点で周波数を測定し、翌日から毎日同じ時間に周波数を測定(24時間間隔)。
- ・集計方法・電源投入後:0.5H の値を全ての基準として、そこからの偏差を集計

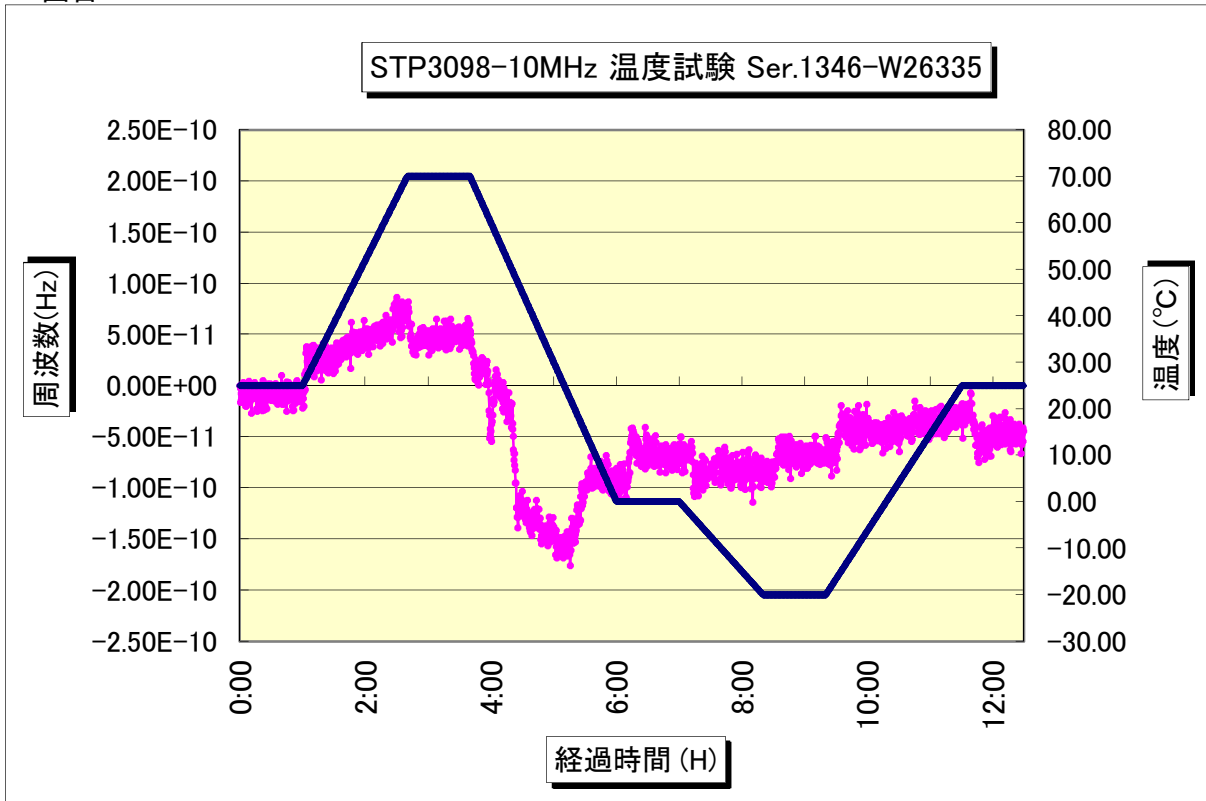


STP3098LF-10MHz (+5V, 矩形波) 温度試験実測データ例

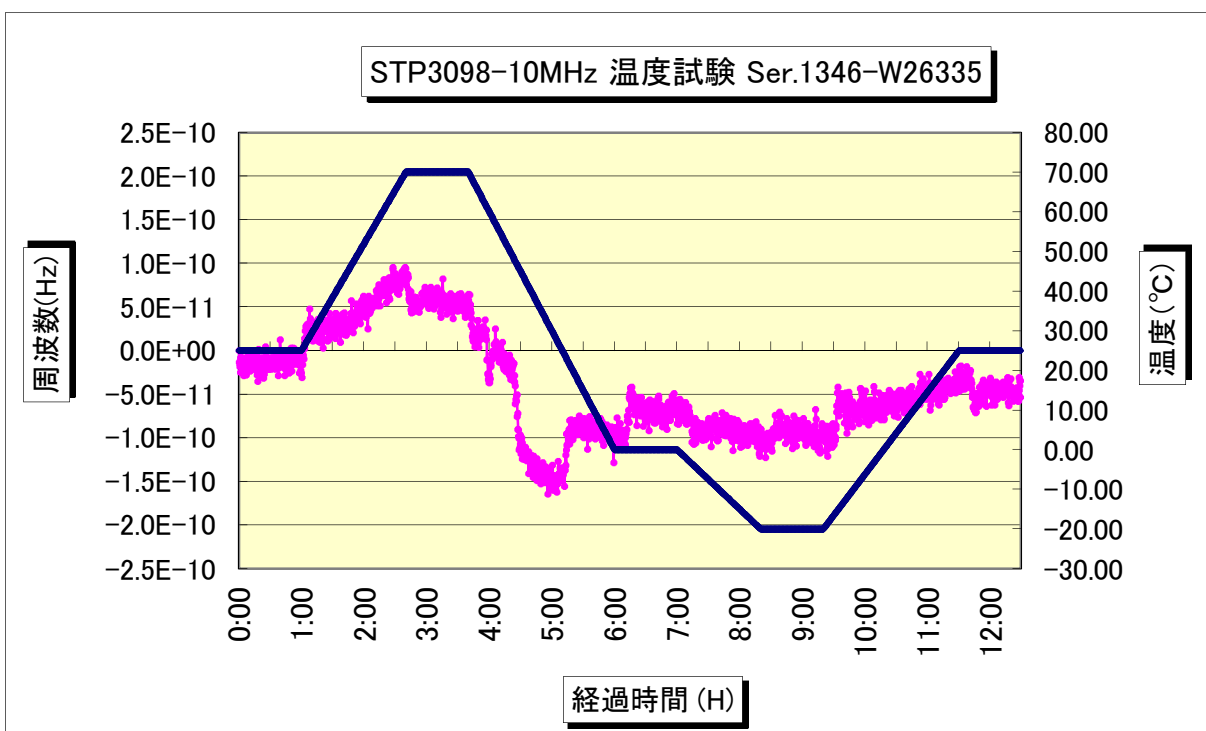
2013/12/13

条件 Vdd = +5.0V
VC = +2.0V
20秒間隔でカウンタでデータをプロット
+25°C→+70°C→0°C→-20°C→+25°Cのサイクル
同じサンプルで2回同じ条件で測定

・1回目



・2回目

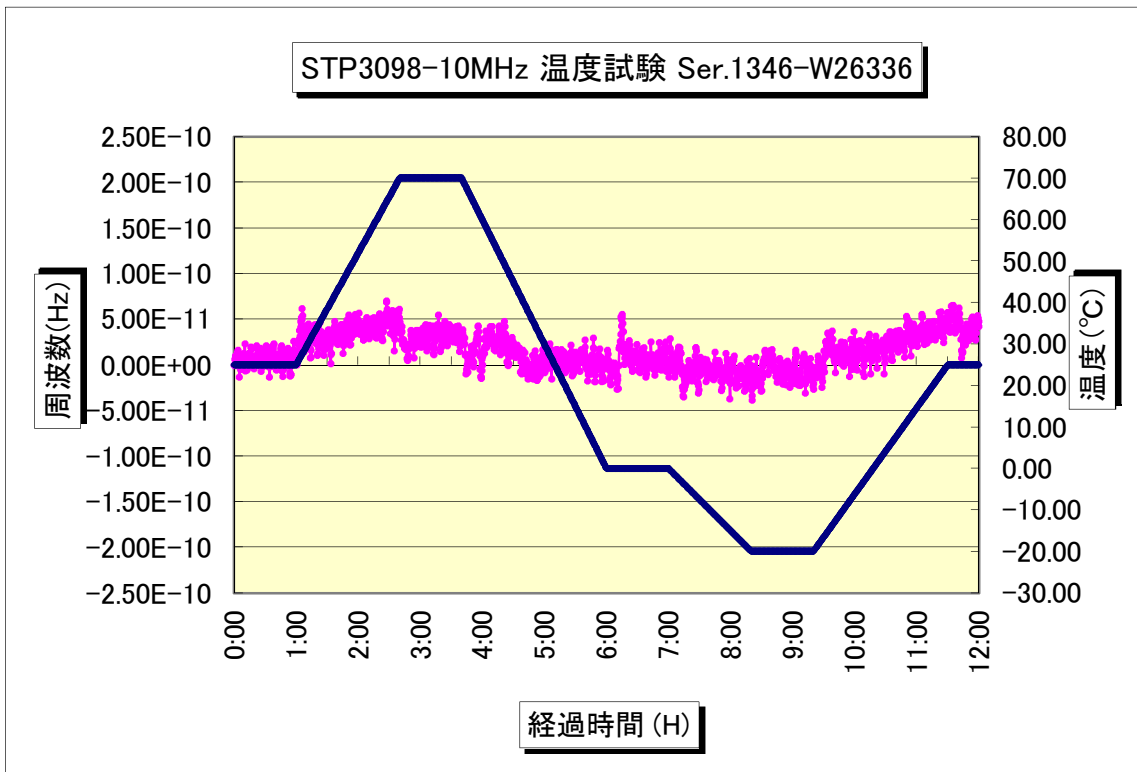


STP3098LF-10MHz (+5V, 矩形波) 温度試験実測データ例

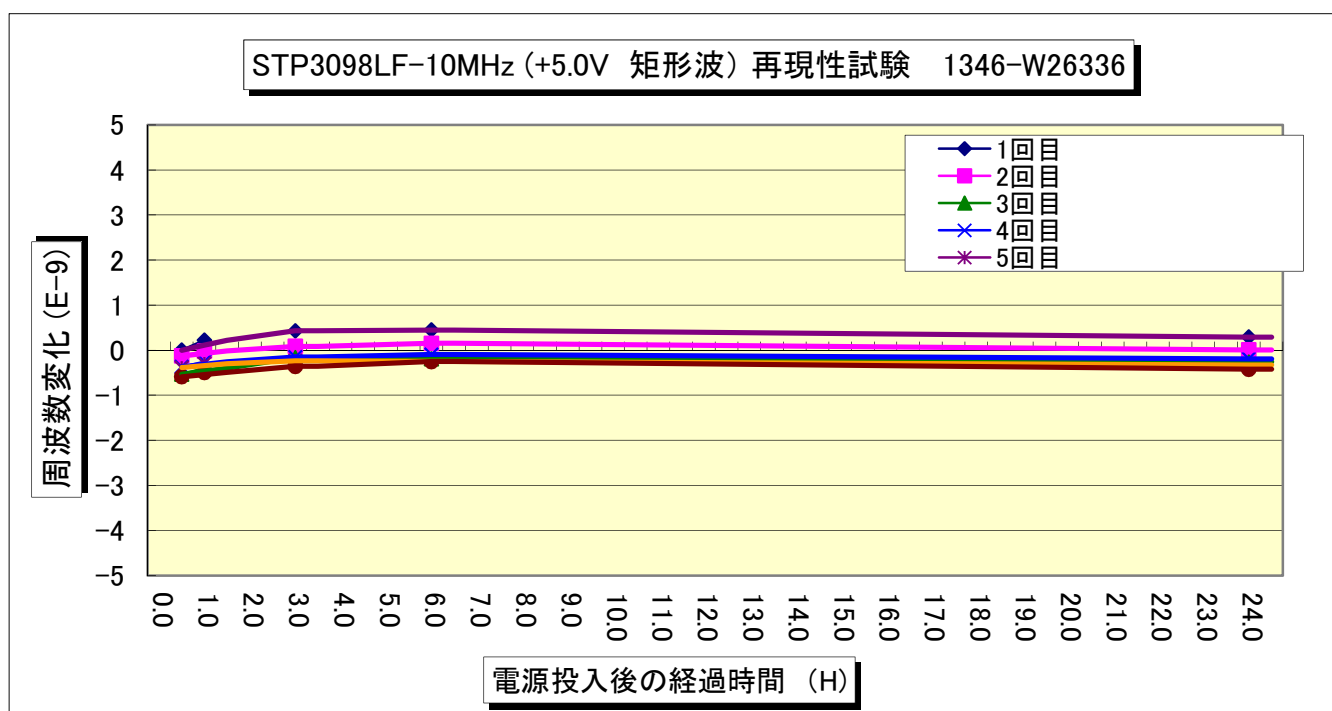
2013/12/13

条件 Vdd = +5.0V
VC = +2.0V
20秒間隔でカウンタでデータをプロット
+25°C→+70°C→0°C→-20°C→+25°Cのサイクル

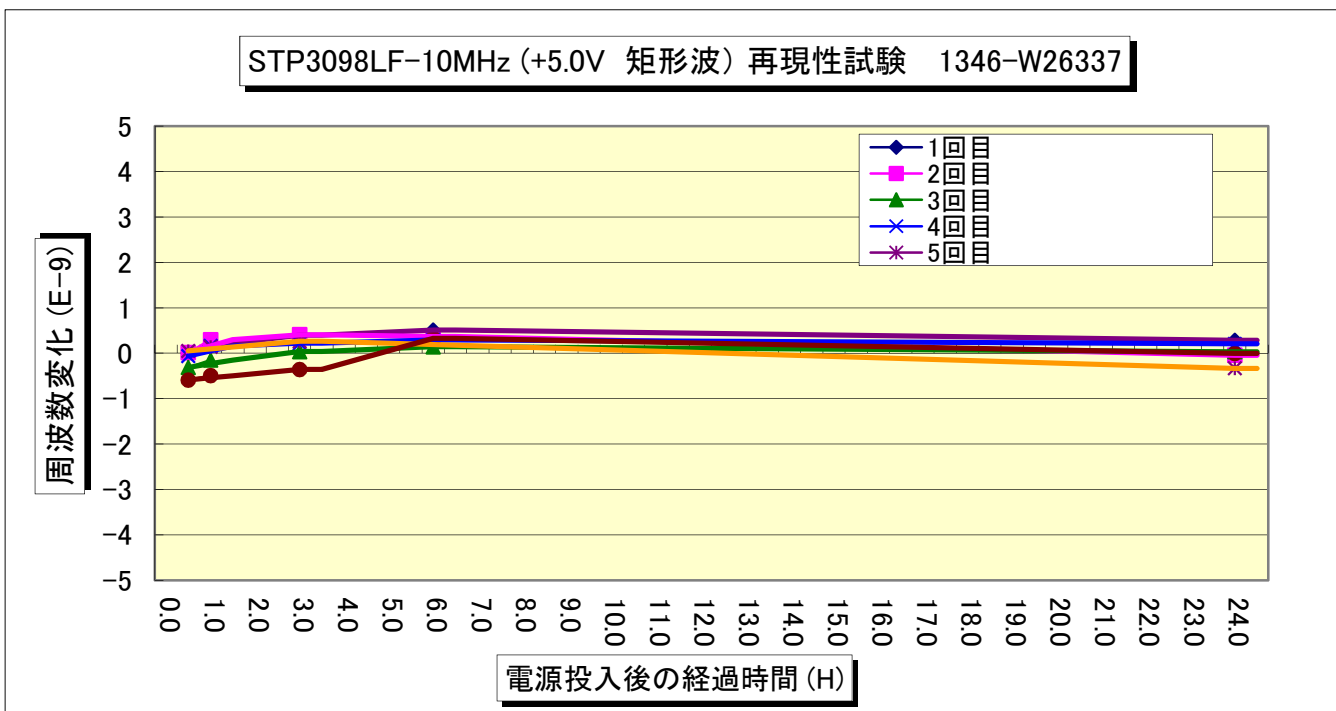
・1回目



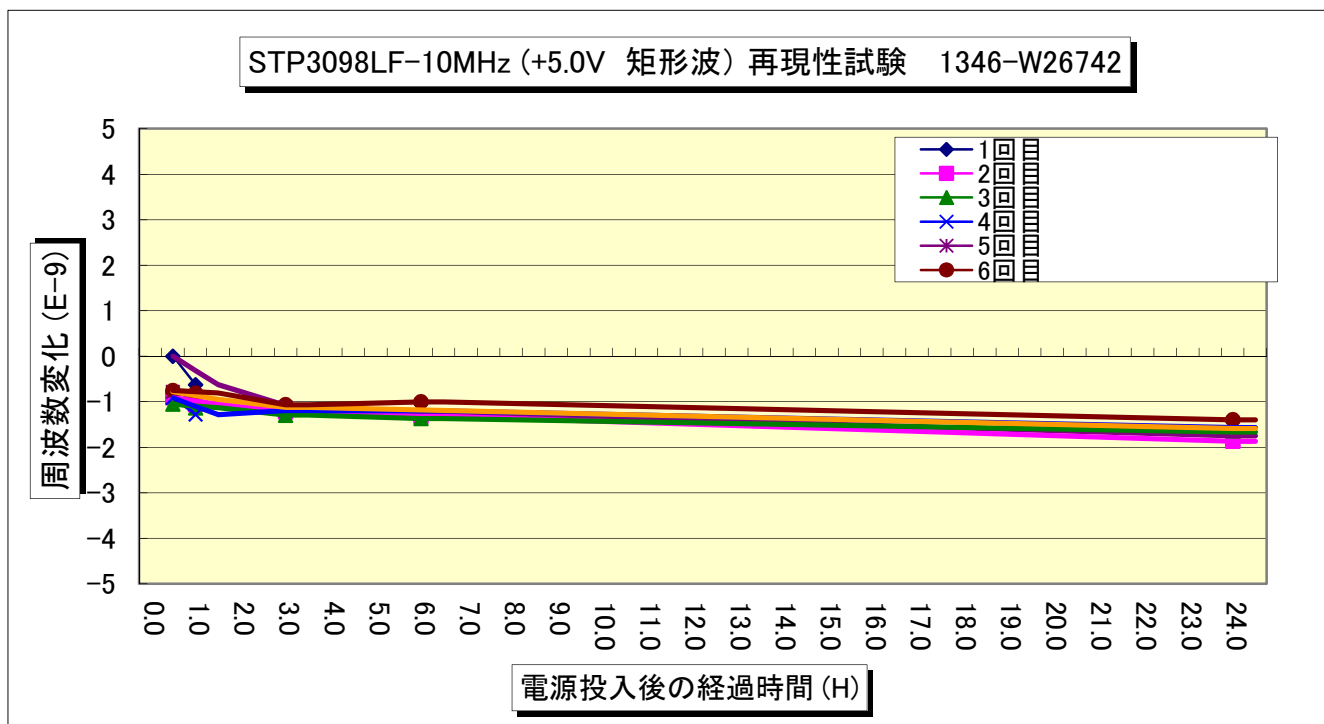
- ・測定方法
 - ・24時間以上非通電の状態から試験を開始
 - ・電源電圧及び制御電圧は一定とする
 - ・周囲温度は室温にて(+20~+25°C程度)
 - ・電源投入後、0.5H/1.0H/3.0H/6.0H/24.0H の時点で周波数を測定し
24.0Hの測定を終えたところで電源を切り、そのまま24時間放置し、翌日の同じ時間に再度電源を投入し測定を開始する。
- ・集計方法
 - ・1回目の電源投入後:0.5H の値を全ての基準として、そこからの偏差を集計



- ・測定方法
 - ・24時間以上非通電の状態から試験を開始
 - ・電源電圧及び制御電圧は一定とする
 - ・周囲温度は室温にて(+20~+25°C程度)
 - ・電源投入後、0.5H/1.0H/3.0H/6.0H/24.0H の時点で周波数を測定し
24.0Hの測定を終えたところで電源を切り、そのまま24時間放置し、翌日の同じ時間に再度電源を投入し測定を開始する。
- ・集計方法
 - ・1回目の電源投入後:0.5H の値を全ての基準として、そこからの偏差を集計



- ・測定方法
 - ・24時間以上非通電の状態から試験を開始
 - ・電源電圧及び制御電圧は一定とする
 - ・周囲温度は室温にて(+20~+25°C程度)
 - ・電源投入後、0.5H/1.0H/3.0H/6.0H/24.0H の時点で周波数を測定し
24.0Hの測定を終えたところで電源を切り、そのまま24時間放置し、翌日の同じ時間に再度電源を投入し測定を開始する。
- ・集計方法
 - ・1回目の電源投入後:0.5H の値を全ての基準として、そこからの偏差を集計



<STP3098LF-10MHz +5.0Vdd, 矩形波> 位相ノイズ試験

・ロット-シリアル 1626-Z18575

